

牛久市文化芸術振興審議会議事概要		日時	令和6年7月26日(金曜日)
件名	第1回 牛久市文化芸術振興審議会	場所 時間	ひたち野リフレ4階 第3会議室 10:00～11:50
作成年月日	令和6年8月6日(火曜日)	作成者	生涯学習課：鈴木
出席者	(出席委員)磯上朋子委員、上仲典子委員、後藤雅宣委員、齊藤泰嘉委員、永井博委員、板東與實委員、 宮地正人委員、宮本芳子委員 (計8名全員出席) (事務局) 川村教育長、小川教育部長、高橋教育次長兼スポーツ推進課長、糸賀生涯学習課長、 宮田課長補佐、鈴木主査、加藤主事(計7名) (傍聴者) 0名 (順不同)		
議事内容	・令和5年度文化芸術事業の評価について ・第2次牛久市文化芸術振興基本計画について		
会 議 内 容 等			
1. 開 会 2. 教育長挨拶 3. 委員紹介 4. 市出席者・事務局紹介 5. 議 事 ① 「令和5年度文化芸術事業の評価について」 (1) (事務局) 資料「令和5年度事業文化芸術課の取り組み」による、各担当事業内容の説明 ○文化芸術活動を展開する ○市民文化祭を開催する ○青少年の文化芸術活動を支援する ○うしく現代美術展の開催を支援する ○郷土の偉人を顕彰する ○文化財を保護継承して活用する ○市内の埋蔵文化財を調査する ○小川芋銭記念館「雲魚亭」を一般公開する ○住井すゑ文学館を公開活用する ○旧岡田小学校女化分校を管理する ○旧飯島家住宅を管理する ○牛久市文化協会の活動を支援する			

- エスカートホールを活用した文化活動を支援する
- 音楽分野における芸術活動を支援する
- うしくのひなまつりの開催を支援する

(2) 質疑／応答など

(後藤会長)

- 1) 本日の議事に、「令和 5 年度文化芸術事業の評価について」とあるが、ここでいう事業評価というのは、担当課である文化芸術課が取り組み実績をまとめたもの、という意味での事業評価という捉え方でよいか？
- 2) 1 ページ目、施策体系の図の見方について、“(後掲)”、“(再掲)”とあるが、これはどういう意味か？
- 3) 前年度に新たに加えられた事業としては、「市民文化祭を開催する」、「旧岡田小学校女化分校を管理する」、「旧飯島家住宅を管理する」、この 3 つが昨年から加わったという理解でよいか？
- 4) 42～43 ページを見ると、課長以下の人数を数えると令和 5 年度は職員が 12 名いたのが、令和 6 年度は 6 名になっているが、スタッフが半減されたのか？

(事務局)

- 1) その通りである。ここでいう事業評価は、文化芸術課が取り組み実績をまとめたものという意味での事業評価となる。
- 2) 文化芸術振興基本計画の上位計画に牛久市教育振興基本計画というものがあり、1 ページ目の体系図は、牛久市教育振興基本計画の基本目標Ⅲ、【社会教育の推進】を抜粋しているものとなる。1 つの事業が大きな計画書の中で見ると、2 か所ないし 3 か所に載っている為、“(後掲)”、“(再掲)”という表記になっている。
- 3) 「市民文化祭を開催する」「旧飯島家住宅を管理する」については新しく加わった事業となる。「旧岡田小学校女化分校を管理する」については、もともと令和 2 年度まで生涯学習課の女化青年研修所という施設として生涯学習課が所管していたが、国登録有形文化財ということで、令和 3 年度から文化芸術課所管となり、文化財としての管理を行っている。
- 4) 42 ページの表について、宮田課長補佐以下 6 名は文化財グループで文化財を専門に行っていた職員であり、R5 年度の文化芸術グループの人数は、木本課長以下 6 名となり、令和 6 年度のスタッフが半減されたということではない。

② 「第 2 次牛久市文化芸術振興基本計画について」

(1) (事務局)

資料「牛久市文化芸術振興基本計画と他の関連する計画について」による、第 2 次文化芸術振興基本計画策定についての説明

(2) 質疑／応答など

(上仲委員)

質問ではないが、私の体感として、コロナの最中、文化芸術はやはり大切だということになり、コロナ明け、皆そこに飢えていたので、ワーッと集まった。しかし今それが段々分散されてきて、文化芸術の力が薄まっているように感じる。文化芸術課が無くなってしまったのもそういう流れが

あるのか。社会・経済・世界情勢を考えると、世界の中の日本の位置付けが段々弱ってきていると感じる。そのような中、文化芸術なんて言っている場合じゃないという様な基準を感じる。牛久市第4次総合計画第2期基本計画、そして令和8年度から第2期牛久市教育振興基本計画ができると思うが、この中にどれだけ文化芸術という部門が組み込まれるのだろうか？次世代になにか残してあげたいという思いがある。地域ひいては日本全体で、とりあえずどれくらい我々の生活文化芸術というものを残していけるかが、これからの我々の仕事なのではないかと思う。

(事務局)

上仲委員から“文化芸術課が無くなった”とあったが、無くなったわけではなく、生涯学習という大きな器の中に入ったということなので、推進体制は変わらないと考える。市民の方との座談会や、若い世代を入れたワークショップを行うなど、市も色々な形でヒアリングを行い、今の生の声を吸い上げながら牛久市第4次総合計画の第二期基本計画を今練っているので、文言は変わってくると思われるが、文化芸術は私たちの生活には無くてはならないものであり、推進体制は継続されるものと思われる。

(永井委員)

予算的にはどうなのか。現状維持は最低あると思うが、将来的に教育委員会の予算体系の中で、幾らか増額とかそういったことは、考え得るのか。

(事務局)

市全体の話から話すと、新しい市長に代わり、様々な公約がなされた。その中に教育委員会としては一番大きな公約で、給食の無償化というのがあった。給食の無償化をするにあたっては教育委員会の中でどこから削るとかではなく、市全体の中で押しなべて考えていくものなので、文化芸術から削られるとか、そういったものではない。必要などころに必要な予算をつけるという形でやっていくと思われるので、我々としては、補助金も含めて、これまで通り予算は要求していきたいというふうに考えている。課としては、必要性を最大限に訴えるべく予算は計上していこうという所存であり、あとは市全体の予算の中でどのように考えられるかということだと思っている。

6. その他

- ① 牛久市第4次総合計画第2期基本計画についての報告
- ② 第2回審議会に向けた事務の進め方等の説明

7. 閉 会